
株式会社エスビー商会 2017年(1月~12月)環境活動レポート

作成日 平成30年 3月31日

次期作成予定 平成31年 3月(予定)

◆◆ 環境方針 ◆◆

株式会社エスビー商会は、環境との共生・調和を目指し、環境負荷の軽減を図るために、以下の環境方針を定め、事業活動を通じてその実現に取り組みます。

1 事業を通じた地球環境保護

全ての事業活動において、地球環境保護に寄与できるようにつとめます。

2 資源・エネルギーの効率的利用

電気、ガス、車両燃料等の消費、廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を認識し、省資源、省エネルギー、リサイクルに努めます。

特に、リサイクル事業部で自動車部品の再利用比率を高め環境負荷軽減を図る。

3 継続的環境改善の実施

環境保全に関する目的・目標を設定し、取り組み結果を見直すことにより、継続的な環境改善に取り組みます。

4 環境開発活動と地域社会貢献活動の推進

環境活動レポートを公表するなど、社内外に対して環境保護に関する情報の提供を行うと共に、事業活動を通じて、取引先に対しても環境負荷の少ない商品の取り扱い啓蒙、リサイクル可能商品の拡大を図る活動を行います。また、啓発、教育活動を推進すると共に、地域社会の一員として地域・社会貢献活動の推進に努めます。

5 環境関連法規の遵守

最新環境関連法規の情報収集に努め、業務遂行に当たっては関連法規を遵守する

平成16年1月26日制定

平成20年2月 1日改訂

株式会社エスビー商会

代表取締役 佐藤 克敏

◆◆ 事業の概要 ◆◆

(1) 事業者名

株式会社エスビー商会
代表取締役 佐藤克敏
法人設立 昭和43年12月
資本金 2700万円

(2) 所在地

本社・郡山営業所 福島県郡山市安積一丁目138
郡山西営業所 郡山市富田町字西町下76
本宮営業所 本宮市青田字ヌカリ27の2
船引営業所 田村市船引町大字船引字城の内14の1
県南営業所 西白河郡矢吹町中町42-2
リサイクル事業部 郡山市田村町金屋字孫右エ門平76
イエローハット郡山南店 郡山市久留米五丁目197-2
イエローハット白河店 白河市立石1-13

(3) 環境保全関係の担当者連絡先

担当者 鈴木和己
連絡先 電話 024-945-5585 FAX 024-945-6696

(4) エコアクション21認証・登録事業所規模及び範囲

①本社・郡山営業所

社員数 56名(6名業務委託者)
売上高 13億0200万円(平成29年12月売上)
社屋床面積 事務所 375㎡
倉庫 664㎡
作業所 83㎡
敷地面積 1,617㎡

②リサイクル事業部

所在地 郡山市田村町金屋字孫右エ門平76
社員数 14名
売上高(扱い高) 2億9,590万円(平成29年12月売上)

床面積 **1,624 m²**
敷地面積 2, 970 m²

事業許可番号

産業廃棄物収集運搬業許可証 郡山市 第 08711103593 号
有効期限：平成 30 年 5 月 28 日
福島県 第 00702103593 号
有効期限：平成 30 年 8 月 24 日

*使用済み自動車の有価物だけの取扱であり、産業廃棄物業としての業務はない。

解体業許可証 郡山市 第 20873000053 号
有効期限：平成 31 年 6 月 30 日
引取業登録通知書 郡山市 第 20871000053 号
有効期限：平成 34 年 10 月 16 日
フロン類回収業者登録通知書 郡山市 第 20872000053 号
有効期限：平成 34 年 10 月 9 日

許可車輛 1 最大積載量 4t トラック 1 台
2 最大積載量 3t トラック 1 台
3 最大積載量 2t トラック 1 台

処理実績（平成 29 年 1 月～12 月）

廃車運搬・処理台数 **1,247 台 1228.7kg**

③郡山西営業所

社員数 **10 名**（外部委託 2 名）
売上高 **3 億 5 3 0 7 万円**（平成 29 年 1 2 月売上）
社屋床面積 事務所・倉庫 1 5 5 m²
敷地面積 2 1 7 m²

④本宮営業所

社員数 8 名（**2 名業務委託者**）
売上高 **3 億 1 1 4 万円**（平成 29 年 1 2 月売上）
社屋床面積 事務所・倉庫 3 1 4 m²
敷地面積 4 4 3 m²

⑤船引営業所

社員数 8 名（1 名業務委託者 1 0 月まで）
売上高 3 億 1 1 2 1 万円（平成 29 年 1 2 月売上）
社屋床面積 事務所・倉庫 1 1 9 m²
敷地面積 4 6 5 m²

⑥ 県南営業所

社員数 5名

売上高 1億5276万円 (平成29年12月上)

社屋床面積 事務所・倉庫 217.㎡

敷地面積 641㎡

⑦ イエローハット郡山南店

社員数 8名

売上高 1億9350万円 (平成29年12月上)

社屋床面積 店舗・ピット・事務所・倉庫 594㎡

敷地面積 1,650㎡

⑧ イエローハット白河店

社員数 13名

売上高 2億1115万円 (平成29年12月上)

社屋床面積 店舗・ピット・事務所・倉庫 1,390㎡

敷地面積 4,922㎡

(5) 事業内容

自動車部品の卸売、整備用機械工具の販売、中古・自動車リサイクル部品の販売
 自動車ガラス交換・修理、ブレーキリビルト業務、
 自動車ガラスフィルム施工、自動車培力装置メンテナンス
 ラジエター修理、自動車部品用品類の小売り、自動車整備事業

(6) 環境目標の担当部署及び責任者

環境管理責任者	専務取締役	鈴木和己
副環境管理責任者	執行役員管理本部長	岩沢雅弘
管理本部	常務取締役	菅家昇子
郡山営業所	所長	渡部大輔
オートガラス課	課長代理	古河善之
サービス課	係長	大石優裕
リサイクル事業部	課長	渡辺浩敦
郡山西営業所	所長	星 博之
本宮営業所	所長	鏡沼直人
船引営業所	所長	橋本武彦
県南営業所	所長	鈴木琢実
イエローハット郡山南店	副店長	人見昭
イエローハット白河店	店長	戸田敦

◆◆ 2017年の環境目標とその実績 ◆◆

(1) 現状と活動状況

◆全体集計

エコアクション21 実績評価表

2017年環境活動目標達成状況

目標達成項目

2017年実績		本社事業所	郡山西営業所	本宮営業所	船引営業所	県南営業所	リサイクル事業部	YH郡山南	YH白河	2017年合計	2017年目標	2017年達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	178,131	31,632	39,839	41,714	32,755	53,033	37,032	108,996	523,132	524,336	100.23%
売上対排出	kg/百万	136.81	89.61	127.89	134.04	152.60	43.16	191.37	516.57			
廃棄物発生量	総量(トン/年)	24.48	1.86	1.48	2.26	0.73	858.90	48.81	49.59	988.11	1,186.32	120.06%
売上対発生	kg/百万	18.80	5.26	4.76	7.25	4.78	0.70	252.22	235.00			
水使用量	総量(m ³ /年)	299	154	107	81	40	178	119	209	1,187	1,519	127.94%
省燃費オイル販売数量	リットル	34,840	5,580	8,360	14,420	5,200		1,087	1,944			
販売比率	低燃費/販売総量	39.0%	23.0%	24.0%	29.0%	24.0%		42.0%	45.0%			
低燃費タイヤ販売本数	本							2,218	2,148			
販売比率	低燃費/販売総数							70.4%	63.1%			
化学物質	kg	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	7.4	23.07	45.90	198.96%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	15.30%	6.40%	8.20%	9.60%	12.10%						

*イエローハット部門のオイル販売数量はオイル交換件数で表示

*リサイクル事業部の二酸化炭素原単位は廃車1t当たりの排出量 kgを表示

2017年目標		本社事業所	郡山西営業所	本宮営業所	船引営業所	県南営業所	リサイクル事業部	YH郡山南	YH白河	目標合計	2016年合計	2016年成長率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	180,810	28,313	40,575	42,287	26,810	68,996	35,390	101,155	524,336	552,826	94.8%
売上対排出	kg/百万	141.00	81.70	123.06	143.88	190.00	41.00	190.00	481.75			
廃棄物発生量	総量(トン/年)	35.52	1.04	1.50	2.35	0.73	1,060.40	40.30	44.48	1,186.32	1,235.58	96.0%
売上対発生	kg/百万	27.38	3.09	4.56	8.31	4.60	0.63	229.90	213.60			
水使用量	総量(m ³ /年)	531	158	89.2	68	37	207	119.4	309	1,519	1,451	104.7%
省燃費オイル販売数量	リットル	27,839	3,800	9,812	12,941	2,036		1,141	1,450			
販売比率	低燃費/販売総量	39.0%	22.0%	30.9%	45.0%	32.0%		39.7%	36.9%			

◆本社事業所・郡山営業所

当事業所の過去3年間の実績は以下の通りです。

本社事業所		2015年実績	2016年実績	2017年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	222,361	197,489	180,810	178,131	101.5%
売上対排出	kg/百万	186.00	152	141.00	136.81	103.1%
廃棄物発生量	総量(t/年)	51.34	35.84	35.32	24.48	144.3%
売上対発生	kg/百万	42.12	27.63	27.38	18.80	145.6%
水使用量	総量(m ³ /年)	490	373	531	299	177.6%
化学物質	kg	13.8	12.4	33.4	11.0	304.7%
省燃費オイル販売数量	リットル	26,850	28,260	27,839	34,840	79.9%
省燃費オイル販売比率	低燃費/販売総量	34%	24%	39%	39%	100.0%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	16.20%	16.00%	17.27%	15.30%	88.6%

* 電気事業者別二酸化炭素排出係数 0.571 東北電力 2014年（平成26年）

◇ 二酸化炭素排出量

- ①総排出量は目標 180,810kg に対して実績 178,131kg で 101.5%と目標通りとなった。また、売上当たりの排出は目標に対し 103.1%と達成となった。2016年と比較すると二酸化炭素排出量は約 90.2%、売上対排出量は約 90%とともに削減となった。
- ②要因別に見ると、エネルギー消費に於いて前年比約 2.2 t 4.4%の削減。輸送関連に於いて約 17.1t、11.6%の削減できた
- ③社員における消費電力削減意識を高めるために昨年に引き続き夏場における消費電力削減キャンペーンを実施、事前告知やキャンペーン参加賞等の改善。
本年度も上位 15 位までは無洗米 5 kg を贈呈。その他参加者全員に 500 円クオカードを贈呈。

◇ 一般廃棄物

- ①紙類の排出が多い現状から、コピー用紙その他の裏面活用徹底、並びに再利用比率の向上を目指した。
- ②プリンター及びコピー機使用は両面印刷コピーの徹底による用紙の削減に取り組んだ。
- ③電子カタログを中心とした業務ペーパーレスの研究。（SCMの活用）
- ④シュレッターダストを単純焼却から再生利用の継続。

◇ 産業廃棄物

- ①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 化学物質

- ①2017年目標 33.4kg に対して実績は 10.96kg と減少となった。
より人体に害が少なく、より環境負荷の少ない代替品を模索していきます。

◇ 水使用量

- ①女子トイレにおける擬音発生装置活用継続
- ②洗車時の節水運動を推進
- ③節水コマの採用により排水量の削減を図った。
- ④流しっぱなしの手洗いから、手を濯ぐ時だけ蛇口を捻るように徹底が出来ていなかった。

◇ リサイクル商品売上高比率

- ①2017年目標の17.27%に対して15.3%(全売上1,302,834 リサイクル商品199,203)と未達
- ②リサイクル商品生産における中古部品売上比率減少、昨年より微減となってしまった。
鉄くず相場の低迷で売上金額が伸び悩んだことも比率未達要因になっている。

◇ グリーン購入

2017年におけるグリーン購入はOA機器、家電製品を中心に実施、事務用品等については表示のあるものを優先購入。

◇ 省燃費オイル販売拡販

2017年におけるオイル販売数量は目標27,839リットルに対して、実績が34,840リットル増加することができた。ただし、販売総量88,280リットルに対して、低燃費量34,840リットル比率で39%で、昨年の比率は変わらず、低燃費オイル拡販を積極的に案内していく。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びにEA21活動推進の為に積極活動を行った。

◆ リサイクル事業部

リサイクル事業部		2015年	2016年	2017年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(Kg-CO2)	53,601	70,397	68,996	53,033	130.1%
廃車処理当たり	kg/廃車トン	48.30	41.83	41.00	43.16	95.0%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	666	1082	1060	859	123.5%
廃車処理当たり	t/廃車トン	0.60	0.64	0.63	0.70	90.1%
廃棄物最終処分量	総量(トン/年)	6.8	11.8	11.6	12.90	89.9%
廃車処理当たり	t/廃車トン	0.006	0.007	0.005	0.010	50.5%
水使用量	総量(m ³ /年)	211	188	207	178	116.3%
廃車処理当たり	m ³ /トン	0.190	0.112	0.109	0.145	75.2%
化学物質	kg	0	0	0	0	0.0%
リサイクル販売個数	個	21,703	21,053	21,389	21,428	99.8%
CO2削減効果	1点×48kg	1,041,744	1,010,544	1,026,672	1,028,544	99.8%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.571（東北電力2014年（平成26年））

◇二酸化炭素排出量

①リサイクル事業部の実績は目標に対して **15.9 t 減少、達成率 130.1%**。前年比 **17.3 t の減少**になった。エネルギー消費に於いては前年比約 **0.42 t、2.6%の増加**。輸送関連に於いて約 **17.7t、33%の減少**となった。

輸送関連に於いては**取扱廃車の減少 (1,680 台 →1,247 台)**と併せ、**遠距離集荷の減少**により**走行距離の減少 (29,371 km、26%の減少)**が考えられる。

②消費電力は前年比 **2.5%の増加**となった。今後も一層の削減活動に努める。

③燃料においては、**6,814 ㍓の減少**になっている。平均燃費も **5.49km/㍓**から **6.07km/㍓**と上がっているがこれらはガソリン車の使用が減った事も挙げられるが、それにも増してキャリアカー使用割合が減った為である。

④今年度も夏場の事務所内温度抑制の一環として、**日よけシェード**を設置した。

◇一般廃棄物

①分別排出を行い、再利用、再生利用の比率向上に努めております。(特に段ボール)

②事務所で使用されるコピー用紙は両面活用した上で全てシュレッダーにかけ、リサイクルパーツ梱包時のクッション材として活用した。

◇産業廃棄物

リサイクル商品の生産強化による再利用比率の向上を図ることにより排出総量の抑制を図った。又、最終処分、単純焼却を減らすことを目的に分別の徹底を図った。

廃車処理実績 **14年 927.5 t、15年 1109.8 t、16年 1682.9 t、17年 1228.7t**

◇水使用量

ラジエター業務体系の変化により目標に対して **29 m³の減少、達成率 116.3%**となった。前年と比べて **6%以上減少**しているが、加えて生活関連の使用も大勢を占めるので引き続き一層の節水活動の徹底を図る。

◇グリーン購入

リサイクル事業部において電気製品、OA機器の購入はなかった。

◇化学物質

リサイクル事業部において化学物質の使用は無い

◆郡山西営業所 2017年環境負荷実績

郡山西営業所		2015年	2016年	2017年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	31,057	30,077	28,313	31,632	89.5%
売上対排出	kg/百万	84.46	81.80	81.70	89.61	91.2%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	1.18	1.84	1.04	1.86	55.9%
売上対発生	kg/百万	3.4	4.99	3.09	5.26	58.7%
水使用量	総量(m ³ /年)	229	277	158	154	102.6%
化学物質	kg	0	0	0.00	0	0.0%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	4.70%	5.90%	6.00%	6.40%	106.7%
省燃費オイル販売比率	省燃費/通常	18%	20%	22%	23%	104.5%
省燃費オイル販売数量	L	4700L	5500L	3800	5580	146.8%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.571（東北電力2014年）

◇ 二酸化炭素排出量

- ①総排出量は目標 28.3 t に対して実績 31.6 t と 89.5%未達。売上当たりの排出は目標に対し 91.2%と未達。2016年比較でもそれぞれ要因として、車両2台（外注）と営業車ディーゼル車からガソリン車への買替が大きく関わっている。外注車両の走行距離の増加も要因
- ②消費電力・CO2 排出の見える化を図り、照明・空調の適正使用、エコドライブの徹底などにより予想以上の削減を図れた。

◇ 一般廃棄物

- ①紙類の排出が多い現況からコピー用紙その他の裏面活用の徹底、並びに再利用・再生利用比率の向上を目指した。
- ②プリンター並びにコピー機利用は極力両面コピー・印刷を促進しコピー用紙の削減を行った。
- ③昨年同様、電子カタログを中心とした業務ペーパーレス化への研究を実施

◇ 産業廃棄物

- ①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

- ①トイレにおける擬音発生装置活用継続
- ②洗車時の節水運動を推進
- ③節水コマの採用により排水量の削減を図った。
- ④水道管の水漏れのため使用量が増加していましたが2017年1月に修理しました

◇ リサイクル商品売上高比率

- ①2017年目標の6%に対して6.4%と達成。今後の更なる拡大を目指す。返答の速さの改善と中古の後追いをを行い、後の受注につなげる。

◇ 省燃費オイル販売比率

①2017年目標の販売量 3800 L に対して実績 5580 L と達成。取り扱い総量も増加した為、販売比率は目標 22% にたいして 23% となりましたが、低燃費車の普及にあわせて販売量は増加しています。

◇ グリーン購入

その他、郡山西営業所において複写機が買い替えで省エネタイプに変更済み

◇ 化学物質

郡山西営業所において化学物質の使用は無い

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◆ 本宮営業所 2017 年環境負荷実績

本宮営業所		2015	2016	2017		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	41,399	40,281	40,575	39,839	101.8%
売上対排出	kg/百万	125.60	123.15	123.06	127.89	96.2%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	1.53	1.34	1.50	1.48	101.4%
売上対発生	kg/百万	4.65	4.11	4.56	4.76	95.8%
水使用量	総量(m ³ /年)	91	101	89.2	107	83.4%
化学物質	kg	0	0	0	0	#DIV/0!
省燃費オイル販売数量	ℓ	8900	4120	9812.3	8360	85.2%
販売比率	低燃費/総量	28.0	25.0	30.87	24.0	77.7%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	7.40%	6.70%	8.50%	8.20%	96.5%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.571（東北電力 2014年）

◇ 二酸化炭素排出量

①総排出量は2016年実績の約40.3 t に対し2017年は約39.8 t と約0.5 t ですが削減ができた。

②ガソリンの使用量は2016年が13867ℓに対し2017年は13608ℓで259ℓの削減ができた。

遠方の取引先への配送の取りやめ（来店引き取りでの対応）ドア、バンパー等の大型リサイクルパーツの直送などにより2016年との比較で走行距離は1784kmの短縮になった。

◇ 一般廃棄物

①紙類の排出が多い現況からコピー用紙その他の裏面活用の徹底、並びに再利用・再生利用比率の向上を目指した。

②プリンター並びにコピー機利用は極力両面コピー・印刷を促進しコピー用紙の削減を行った。

③電子カタログを中心とした業務ペーパーレス化への研究をスタート

◇ 産業廃棄物

①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

- ①トイレにおける擬音発生装置の活用を検討する
- ②洗車時の節水運動を推進
- ③節水コマの導入を検討する
- ④ペットボトルをトイレタンク内に入れ節水

◇ 省燃費オイル販売比率

①2017年目標の30.87%に対し実績は24.0%と未達。達成はできていないが、2017年は新規でディーゼルオイルDL-1 0W-30の拡販につとめた。

◇ リサイクル商品売上高比率

①2017年目標の8.5%に対して実績が約8.2%と販売比率は未達成ではあるが、販売点数は2016年の1199点に対し2017年は1263点に増加。今後も中古品、リビルトの迅速な対応や後追いさらには新規ユーザーの獲得を目指しさらなる拡販を目指す。

◇ グリーン購入

OA機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びにEA21活動推進の為に積極活動を行った。

◇ 化学物質の使用

本宮営業所では使用していません。

◆ 船引営業所 2017年環境負荷実績

船引営業所		2015年	2016年	2017年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	43,138	42,892	42,287	41,714	101.4%
売上対排出	kg/百万	146.78	140.72	143.88	134.04	107.3%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	2.50	2.90	2.35	2.26	104.0%
売上対発生	kg/百万	8.49	9.51	8.31	7.25	114.6%
水使用量	総量(m ³ /年)	72	75	68	81	84.0%
化学物質	kg	0	0.0	0.0	0.0	#DIV/0!
低燃費オイル販売数量	L	1,842	12,660	12,941	14,420	111.4%
低燃費オイル販売比率	%	17.0	25.0	45.0	29.0	155.2%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	10.40%	10.0%	11.7%	9.6%	82.1%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.571（東北電力2014年（平成26年））

◇ 二酸化炭素排出量

①総排出量は2016年実績42.8tに対し2017年は約41.7tと約1.1t削減することができた。売上金額が増加したのにも比例せず二酸化炭素排出量は減少し良い傾向だった。

- ②消費電力・CO2 排出の削減の為、照明の LED 化やこまめな消灯、照明の片側点灯を行った。
他にも空調の適正使用、温湿度計を設置し見える化することにより意識を高めることが出来た。**室内の LED 照明の最低限の使用する所の個別の切替スイッチへ変更した。**

(2) 一般廃棄物

- ①紙類の排出が多い現況からコピー用紙その他の裏面活用の徹底、並びに再利用・再生利用率の向上を目指した。(両面使用したものはシュレッターし梱包材にて再利用)
②プリンター並びにコピー機利用は極力両面コピー・印刷を促進しコピー用紙の削減を行った。
③電子カタログを中心とした業務ペーパーレス化への研究をスタート

(3) 産業廃棄物

- ①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用率の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

- ①トイレにおける擬音発生装置活用継続
②**社用車の美化のため洗車頻度が増加し使用料が増加した。**

◇ 省燃費オイル販売比率

- ① 2017 年度実績に於いては前年を上回り前年比より 155.2%という結果になったが、2017 年の目標には 29.0%と未達であった。集計表を元に 2017 年度の販売実績を見てみると、一番販売数の多い 0W-25/200L ドラム缶の実績が 2016 年度/49 に対して 2017 年度/64 本という結果になっている。また、その他の粘度・ペール缶に関しても前年実績を超える事が出来た。

◇ リサイクル商品売上高比率

- ①**2017 年目標の 11.7%に対して 9.6%と未達成。**引き続き目標達成へ向けリサイクル部品の販売に意識を持ち比率を上げて行く。

◇グリーン購入

○A 機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

目標に対して課題を明確にし、具体的な行動を考えていく事が重要である。

◆ 県南営業所 2017年環境負荷実績

県南営業所		2015年	2016年	2017年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO ₂)	27,646	32,845	26,810	32,755	81.9%
売上対排出	kg/百万	196.48	225.00	190.00	152.60	124.5%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	0.75	71.00	0.73	0.73	100.0%
売上対発生	kg/百万	5.14	4.89	4.60	4.78	96.2%
水使用量	総量(m ³ /年)	47	41	37	40	92.5%
化学物質	kg	0	0	0.0		#DIV/0!
省燃費オイル販売数量	L	1842	3,640	2,036	5,200	255.4%
省燃費オイル販売比率	%	17	18.0	32.0	24.0	133.3%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	10.40%	10.50%	9.7%	12.1%	124.7%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.571（東北電力2014年）

◇ 二酸化炭素排出量

- ①総排出量は目標約26.8tに対して実績約32.8tと約81.9%で未達となりました。
- ②営業所開設時から照明はLED化されているため、こまめな節電、冷暖房の温度調節を行い、特に冬季の電気量削減に努めたいと思います。
- ③燃料の使用量は配送の効率化（配送の回数減とまとめ配送）やエコドライブの推進を図り削減に努めて参ります。

◇ 一般廃棄物

- ①紙類の排出を削減するため、コピー用紙の裏面活用と並びに再利用比率の向上を徹底した。
- ②印刷の際なるべくカラーはせず白黒活用

◇ 産業廃棄物

- ①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率を向上させることが出来た。

◇ 水使用量

- ①トイレにおける擬音発生装置の活用。
- ②洗車時の節水運動を推進

◇ リサイクル商品売上高比率

- ①2017年目標に対して、127.4%と達成。今後の更なる拡大を目指す。

◇ 省燃費オイル販売

- ①省燃費オイルの販売比率12.7%と達成

◇OA機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇環境委員会の活動

環境目標の達成、並びにEA21活動推進の為に積極活動を行った。

◇化学物質の使用

県南営業所においては化学物質の使用はありません

◆イエローハット郡山南店 2017年環境負荷実績

イエローハット郡山南店		2015年	2016年	2017年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	36,121	34,848	35,390	37,032	95.6%
売上対排出	kg/百万	205.24	190.67	190.00	191.37	99.3%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	41.30	58.88	40.30	48.81	82.6%
売上対発生	kg/百万	234.66	322.19	229.90	252.22	91.1%
水使用量	総量(m ³ /年)	122	121	119.40	119.00	100.3%
化学物質	kg	4.67	4.67	4.50	4.67	96.4%
低燃費タイヤ販売本数	本	1,308	2,148	1,361	2,218	163.0%
低燃費タイヤ販売比率		49.23%	64.14%	53.23%	70.37%	132.2%
省燃費オイル販売件数	件	1,108	1,131	1,141	1,087	95.2%
省燃費オイル販売比率		37.66%	40.73%	39.66%	42.02%	105.9%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.571（東北電力2014年（平成26年））

◇ 二酸化炭素排出量

- ① 二酸化炭素排出量は、約37.0tとなっており、目標に対しては95.6%と未達で終わりました。今後は改善をめざします。
- ② エネルギーに関しては、電気使用による二酸化炭素排出量が35.8tと96.8%をしめました。電気使用に関しては、主に事務所やバックルームをこまめに消灯。閉店直後に店舗照明を消す様にしています。空調は温度をこまめに調整して行っています。
- ③ 30分デマンドにより基本料金の削減活動をしていましたが、2月のエアコン工事の際にデマンドの調整が出来ず基本料金が上がり、約11万円の増加になりました。来年度は時間に気を付け電源を入れていき調整して基本料金も下げていきます。電気使用量に関しては古いエアコン3基を新しいエアコンに交換して昨年までは3基でのエアコンにて使用していましたが、今年は寒い時や、暑い時に6基にエアコンを使用して増加してしまいました。今後は温度設定を半分ずつ違う設定にして使用するなど使用量を少しでも減らせるようやっています。
- ④ ガソリンに関しては代車が1台が増えたことと使用環境が変わり、走行距離が増加した為、使用量が増えました。燃費に置いては昨年がリッター8.32kmに対して今年ではリッター12.47kmと改善はしています。

◇ 一般廃棄物

- ① ゴミ類の分別の徹底、リサイクル可能な廃棄物の明確化。
- ② 裏面未使用のコピー用紙の再利用の継続徹底

◇ 産業廃棄物

当店だとタイヤがメインでの排出が約84%となっております。ですがタイヤは熱回収、アルミホイールと鉄くずは金属回収を行っていますので多くは再資源になっています。

◇ 水使用量

当店での使用量は 119 m³で 119000L です。200 l ドラム 595 本相当になります。流しながら手を洗わない等こまめに蛇口を捻って節水した結果 2 m³減らすことができました。

ピットメニューでポリマーコートを始めましたがまだ件数が伸びてはいないので、これから水の使用量が増えるかと思われまますので、必要最低限に蛇口はこまめに閉める活動をしていきます。

◇ 化学物質

パートクリーナーの使用のみとなっています。目標 10 缶以下は達成できませんでした。今後は更に作業で使用しないよう、極力汚さないよう心掛けるようにしていきます。10 缶以下を目標にします。

◇ グリーン購入

OA機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◇ 低燃費タイヤ、燃費オイル販売

今年はタイヤの値上がりもありタイヤ自体の販売本数も増え、低燃費タイヤの本数は目標に対して 163%に増え、夏タイヤ全体で 70.37%を締めました。オイルは全体の件数が伸びず、低燃費オイルの販売件数は低かったが、全体の 42.02%は締めました。目標に対しては達成で終えましたので来年も引き続き販売していきます。

◆イエローハット白河店 2017年環境負荷実績						
イエローハット白河店		2015年	2016年	2017年		
				目標	実績	達成率
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	186193	103,997	101,155	108,996	92.8%
売上対排出	kg/百万	846.33	490.55	481.75	516.57	93.3%
廃棄物発生量	総量(トン/年)	48.56	52.17	44.48	49.59	89.7%
売上対発生	kg/百万	215.6	246.08	213.6	235.0	90.9%
水使用量	総量(？/年)	260	275	309	209	147.8%
化学物質	kg	9.49	8.18	8	7.40	108.1%
夏タイヤ販売本数	本	3193	3542	3,257	3,405	104.5%
低燃費タイヤ販売本数	本	1390	2438	1490	2,148	144.1%
低燃費タイヤ販売比率	%	43.5	68.8	45.7	63.1	138.0%
オイル交換総件数	件	3983	4738	4,063	4,318	106.2%
低燃費オイル交換件数	件	1400	1992	1450	1,944	134.0%
低燃費オイル交換比率	%	35.1	42	36.9	45	121.9%

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.499（2015年より須賀川電気の係数で算出）

◇ 二酸化炭素排出量

- ① 2015年より、廃タイヤを除いた数値で二酸化炭素排出量を算出している。
- ②消費電力の削減の為、店内蛍光灯の千鳥点灯の実施。ピット照明の不必要な点灯防止に努め、二酸化炭素を削減することができた。
- ⑤ 30分デマンドの実施、意識づけ。電気起動を段階的に分ける。

◇ 一般廃棄物

- ① ゴミ類の分別の徹底、リサイクル可能な廃棄物の明確化。
- ② 裏面未使用のコピー用紙の再利用の継続徹底

◇ 産業廃棄物

- ①単純焼却、最終処分量を減らすことを最大テーマとして、その為に分別の徹底を図り再利用、再生利用の比率の向上を目指す。

◇ 水使用量

- ①ピットの水道の止め忘れ防止。
- ②洗車時、洗車機のスイッチをこまめに止めるよう徹底。

◇ グリーン購入

○A機器、電化製品の目立った購入はなかった。

◇ 環境委員会の活動

環境目標の達成、並びに EA21 活動推進の為に積極活動を行った。

◇ 低燃費タイヤ、低燃費オイル

低燃費タイヤは、目標をクリアできたが比率は前年比5%ダウン。省燃費オイルは目標クリアで前年比より3%伸ばす事ができた。継続して接客時には提案していく。

◆◆ 環境活動の取組結果の評価 ◆◆

(1) 数値目標を達成するための取組

◇ 本社事業所・郡山・郡山西・本宮・船引・県南営業所

環境目標	取組内容	評価
①二酸化炭素 排出量	不要箇所の消灯 LED管への交換 冷暖房温度の基準遵守（冷房26度・暖房21度）	概ね徹底 実施済み(本社4F階段 2018年4月実施) 概ね達成(室温管理) 使用時間の短縮

	<p>アイドリング時間の削減 (e-テレマ車 20%以内目標)</p> <p>エコドライブの徹底 (e-テレマ 危険挙動ゼロ活動)</p> <p>社有車の更新は、エコカーを優先する</p> <p>燃費改善運動の展開</p> <p>配送体制の見直し</p>	<p>励行されている</p> <p>スノーブラシの再配備</p> <p>概ね励行されている</p> <p>役職者による指導</p> <p>ヒヤリハットの共有</p> <p>軽自動車の増加</p> <p>ハイブリッド車4台保有</p> <p>改善レベルを維持</p> <p>逐次実施</p>
	<p>原単位の評価</p>	<p>郡山西・本宮未達</p> <p>今後の改善を目指す</p>
②一般廃棄物 排出量	<p>コピー用紙の両面使用</p> <p>分別ボックスを設置し、分別を徹底する</p> <p>・原単位の評価</p>	<p>会議資料等は徹底されているが、生活における排出が増加、改善を目指す</p> <p>本社と船引が達成、以外は未達、今後の改善を目指す</p>
③産業廃棄物 排出量	<p>産業廃棄物の分別を徹底して、再資源化及び再利用を推進する</p> <p>単純焼却、最終処分の削減を図る</p> <p>・原単位の評価</p>	<p>概ね実施されている</p> <p>概ね達成</p> <p>一般廃棄物と同じ</p>
④総排水量	<p>社内の節水運動を推進する</p> <p>女子トイレに音姫設置の活用</p> <p>洗車用水の節水を推進する</p> <p>洗車ホースの漏水等の防止</p> <p>節水コマの活用</p>	<p>概ね励行</p> <p>使用は徹底</p> <p>概ね励行</p> <p>定期的に確認</p> <p>一部導入</p>
⑤リサイクルパーツ 取扱拡大	<p>営業活動に於いて積極的に販売する</p> <p>売り上げ構成比率目標の達成を目指す</p>	<p>積極活動を実施しかしながら</p> <p>郡山西、県南を除き未達、営業活動を強化する。</p>
⑥省燃費オイル の販売	<p>営業活動において積極的に販売する</p> <p>売上総量と共に販売比率を目標とする</p>	<p>販売総量は本宮以外達成</p> <p>販売比率は郡山、郡山西が達成</p>

⑦化学物質	サービス課プライマー、事業開発課シンナーの使用を抑制する 代替品の研究を推進する	代替品なし 使用量は横ばい 継続的に研究
⑧グリーン購入	電気製品、OA機器は指定品優先 一般備品の購入時グリーン購入の励行	電気製品、OA機器は 100%実施
⑨環境委員会活動	各部署を代表してEA21活動を推進する	日々の活動に併せ、月一回の例会を実施して活動を推進した。
⑩地域・社会貢献活動	地域清掃活動（近隣清掃）を月2回行った 概ね、全社員が各家庭で、節電・節水を実施しているが、更に啓蒙活動を行う。	社員家庭における電力消費の削減運動を啓蒙した 月2回の近隣清掃実施

◇ リサイクル事業部

環境目標	取組内容	評価
①二酸化炭素 排出量	不要箇所の消灯 冷暖房温度の基準遵守（冷房26度・暖房22度）	概ね徹底 概ね達成（室温計活用）
	アイドリング時間の削減 エコドライブの徹底 燃費改善運動の展開	概ね励行されている 概ね励行されている 概ね励行されている
	灯油、LPG、燃料の削減 ・原単位の評価	削減中 期間処理台数において 前年度より 6.2%悪化 未達成
②一般廃棄物 排出量	コピー用紙の両面使用 分別ボックスを設置し、分別の徹底 ・原単位の評価	概ね励行 概ね励行 達成
③産業廃棄物 排出量	産業廃棄物の分別を徹底して、再資源化及び再利用を推進する 単純焼却、最終処分の削減を図る ・原単位の評価	概ね実施されている 削減 未達成

④総排水量	社内の節水運動を推進する 洗車用水の節水を推進する ・原単位の評価	概ね励行 概ね励行 達成
⑤リサイクルパーツ 生産拡大	廃車の取扱拡大と共にリサイクル部品 の生産を増やす	前年並みの取扱 (目標 21,175 点) 未達成 (21,053 点)
① 地域・社会貢献 活動	地域清掃活動（近隣清掃）を月 1 回行った 概ね、全社員が各家庭で、節電・節水を実施 しているが、更に啓蒙活動を行う。	社員家庭における電力 消費の削減運動を啓蒙した 月 1 回の近隣清掃実施

*グリーン購入：リサイクル事業部使用コピー機の入れ替え

*化学物質の削減：リサイクル事業部において化学物質の使用なし

◇ イエローハット部門

環境目標	取組内容	評価
①二酸化炭素 排出量	不要箇所の消灯 蛍光灯点灯本数の削減 LED 管への交換 冷暖房温度の基準遵守（冷房 26 度・暖房 20 度）	概ね徹底 概ね実施 順次実施、郡山南済み 概ね達成 使用時間の短縮
	アイドリング時間の削減 エコドライブの徹底 社有車の更新は、エコカーを優先する 燃費改善運動の展開	概ね励行されている 概ね励行されている お客様への啓蒙活動 軽自動車の増加 改善レベルを維持
	原単位の評価	両店とも未達。 今後は改善を目指す
一般廃棄物 排出量	コピー用紙の両面使用 分別ボックスを設置し、分別を徹底する ・原単位の評価	会議資料等は徹底されている が、生活における排出が増加、 改善を目指す 両店とも未達

		今後の改善を目指す
③産業廃棄物 排出量	産業廃棄物の分別を徹底して、再資源化及び再利用を推進する 単純焼却、最終処分の削減を図る ・原単位の評価	概ね実施されている 前年比白河店削減 両店とも未達
④総排水量	社内の節水運動を推進する 女子トイレに音姫設置の活用 洗車用水の節水を推進する 洗車ホースの漏水等の防止 節水コマの活用	概ね励行 使用は徹底 概ね励行 定期的を確認 一部導入
③ 化学物質	パーツクリーナの使用抑制 代替品の研究を推進する	代替品なし 使用量白河店増加 継続的に研究
④ グリーン購入	電気製品、OA機器は指定品優先 一般備品の購入時グリーン購入の励行	電気製品、OA機器は 100%実施
⑧環境委員会活動	各部署を代表してEA21活動を推進する	日々の活動に併せ、月一回の例会を実施して活動を推進した。
⑨地域・社会貢献 活動	地域清掃活動（近隣清掃）を月2回行った 概ね、全社員が各家庭で、節電・節水を実施しているが、更に啓蒙活動を行う。	社員家庭における電力消費の削減運動を啓蒙した 月2回の近隣清掃実施
⑩低燃費タイヤ・ 省燃費オイル販売	お客様に環境に配慮した商品をオススメ販売す （低燃費オイルは0W-20、5W-20を対象とする。 燃費タイヤはラベリング制度において転がり抵抗性能がA以上、ウェット性能C以上の物を対象に ます。）	両店共に達成。 次年度も継続して販売。

（２）社員の意識高揚

2003年10月からの分別活動等により、今まで意識しなかった環境負荷、地球温暖化等に対し理解が深まり、ゴミの削減等に対する協力が得られるようになって来た。今後は、省エネ、リサイクル等に於いて一層の協力が得られるように活動して行く。

07年7月を中心に社員の家庭を対象とした消費電力削減キャンペーンを実施することにより ea21 活動への理解を深め以降毎年実施して現在に至る。

郡山市主催のエコオフィス認定制度に申し込みを行い2008年9月よりその活動を実施、2009年8月に1年の活動を集計、エコオフィス認定を受け、現在に至る活動としている。エコドライブ推進に当たっては本社・郡山営業所関係車両を中心に「e-テレマ」管理システムを導入、改善を図っている。

◆◆ 環境目標と主要な活動計画の内容 ◆◆

◆今年度以降の目標

新基準採用目標 **2018年目標(2016年以降目標)**

※電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.571（東北電力2014年）（全拠点共通）

本社事業所		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	222,361	180,810	178,131	179,005
売上対排出	kg/百万	186.00	141.00	136.81	140.00
廃棄物発生量	総量(トン/年)	51.34	35.32	24.48	34.97
売上対発生	kg/百万	42.12	27.38	18.80	27.11
水使用量	総量(m ³ /年)	490	531	299	526
化学物質	kg	13.8	33.4	11.0	33.1
省燃費オイル販売数量	リットル	26,850	27,839	34,840	28,120
省燃費オイル販売比率	省燃費/販売総量	34%	39%	39%	44%
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	16.20%	17.27%	15.30%	16.30%

※2015年以降の目標は廃タイヤを含まない目標へ変更してあります。

郡山西営業所		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	29,189	28,313	31,632	27,180
売上対排出	kg/百万	84.30	81.70	89.61	77.70
廃棄物発生量	総量(トン/年)	1.06	1.04	1.86	1.02
売上対発生	kg/百万	3.13	3.09	5.26	3.02
水使用量	総量(m ³ /年)	160	158	154	156
化学物質	kg	0.00	0.0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	3,100	3,800	5,580	5,900
省燃費オイル販売比率	%	20%	22.0	23.0	24.0
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	5.5%	6.0%	6.4%	6.2%

本宮営業所		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	40985	40,575	39,839	40,169
売上対排出	kg/百万	124.30	123.06	127.89	121.83
廃棄物発生量	総量(トン/年)	1.51	1.50	1.48	1.48
売上対発生	kg/百万	4.6	4.56	4.76	4.51
水使用量	総量(m ³ /年)	90.1	89.2	107.0	88.3
化学物質	kg	0	0	0	0
省燃費オイル販売数量	ℓ	9345	9812.3	8360.0	10303
販売比率	低燃費/総量	29.4	30.9	24.0	34.0
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	8%	8.50%	8.20%	9.00%

船引営業所		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	42,710	42,287	41,714	41,868
売上対排出	kg/百万	145.32	143.88	134.04	142.45
廃棄物発生量	総量(トン/年)	2.38	2.35	2.26	2.29
売上対発生	kg/百万	8.40	8.31	7.25	8.22
水使用量	総量(m ³ /年)	70	68	81	66
化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	12,325	12,941	14,420	13,070
省燃費オイル販売比率	%	40.0	45.0	29.0	50.0
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	10.7%	11.7%	9.6%	12.7%

県南営業所		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	27,370	27,090	32,755	26,810
売上対排出	kg/百万	194.00	192.00	152.60	190.00
廃棄物発生量	総量(トン/年)	0.75	0.74	0.73	0.73
売上対発生	kg/百万	4.70	4.60	4.78	4.50
水使用量	総量(m ³ /年)	39	38	40	37
化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	0.0
省燃費オイル販売数量	L	3,280	3,450	5,200	2,036
省燃費オイル販売比率	%	22.0	27.0	24.0	32.0
リサイクル部品比率	リサイクル/全部品	9.4%	9.5%	12.1%	9.7%

リサイクル事業部		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(Kg-CO2)	69,693	68,996	53,033	68,306
廃車処理当たり	kg/廃車トン	41.41	41.00	43.16	40.59
廃棄物発生量	総量(トン/年)	1071	1060	859	1050
廃車処理当たり	t/廃車トン	0.64	0.63	0.70	0.62
廃棄物最終処分量	総量(トン/年)	11.7	11.60	12.90	11.48
廃車処理当たり	t/廃車トン	0.005	0.005	0.010	0.005
水使用量	総量(m ³ /年)	209	207	178	205
廃車処理当たり	m ³ /トン	0.124	0.109	0.145	0.108
化学物質	kg	0	0	0	0
リサイクル販売個数	個	21,175	21,389	21,428	21,602
CO2削減効果	1点×48kg	1,016,400	1,026,672	1,028,544	1,036,896

イエローハット郡山南店		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	35,750	35,390	37,032	35,030
売上対排出	kg/百万	200.00	190.00	191.37	180.00
廃棄物発生量	総量(トン/年)	40.80	40.30	48.81	39.80
売上対発生	kg/百万	232.30	229.90	252.22	227.60
水使用量	総量(m ³ /年)	120.70	119.40	119.00	118.20
化学物質	kg	4.60	4.50	4.67	4.40
低燃費タイヤ販売本数	本	1,334	1,361	2,218	1,388
低燃費タイヤ販売比率		51.23%	53.23%	70.37%	55.23%
省燃費オイル販売件数	件	1,119	1,141	1,087	1,164
省燃費オイル販売比率		38.66%	39.66%	42.02%	40.66%

イエローハット白河店		2016年目標	2017年目標	2017年実績	2018年目標
二酸化炭素排出量	総量(kg-CO2)	102,167	101,155	108,996	100,153
売上対排出	kg/百万	486.57	481.75	516.57	476.98
廃棄物発生量	総量(トン/年)	45.33	44.88	49.59	44.43
売上対発生	kg/百万	215.8	213.6	235	211.4
水使用量	総量(?/年)	316	309	209	303
化学物質	kg	8.09	8	7.4	7.92
低燃費タイヤ販売本数	本	1,555	1,601	2,148	1,649
低燃費タイヤ販売比率	%	58.7	60.4	63.1	62.2
低燃費オイル交換件数	剣	1,964	2,004	1,944	2,064
低燃費オイル交換比率	%	39.3	40.4	45	41.46

◇グリーン購入目標

2017年以降に購入する電気製品、OA機器に関して適合品のあるものは100%グリーン購入適合品を購入する。更に、その他の物品購入に当たってはグリーン購入適合品を優先して購入する。

◆本社事業所・郡山営業所

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量（省エネに関する取組）

①エネルギー関連

○消費電力削減活動

- ・温度計による室温管理により極度の暖房や冷房(暖房 22℃冷房 26℃)の使用に注意する。
- ・温度計での温度・湿度での体感温度を調整する。
- ・自動ドアの開け閉めでの温度調整。
- ・本社一階についているブラインドの有効活用をする。
- ・使用していない時は照明をこまめに消す。
- ・日曜当番時の暖房・冷房の効率化を図る。
- ・サービス課、オートガラス課内の節電・冷暖房のチェックを昨年に引き続き継続する。
- ・朝礼時は一階事務所一列のみ照明を点灯させるまた、倉庫暖房を消す。

○灯油・LPG使用

- ・張り紙等の表示をして夏場の湯沸かし器また使用水削減の抑制。
- ・室温を22度とし、暖房温度また湿度管理は温度計を利用して適切に行う。
- ・作業所関連の冷暖房器具の滞在時のみの適正利用化を図る。

②輸送関連燃料消費削減

○燃費改善活動

- ・エコドライブの徹底を図る。
- ・車両別燃費の確認は前年度を基準にコース別に燃費率をだし毎月確認・告示する
- ・低燃費車の購入を優先する。
- ・eテレマックスでの燃費削減と、運転技術の向上。
- ・eテレマックスでの意識改善を図る。

○走行距離削減活動

- ・配送ミス、出庫ミスの撲滅をはかり無駄な配送を減らす。

(誤配送のカウント)

・問屋さんとの連携を図り定期便の有効活用とスムーズな配達の実施をする。

・郡山倉庫ラインナップの強化し無駄な問屋ディーラー周りをなくす(配達の効率化)

・急ぎ便の配達の効率化*配達ルートの効率化

・各コース分けずの配送検討

○車両購入の新規購入は低燃費車を優先する

2) 廃棄物の排出量 (リサイクルに関する取組)

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を上げると共に、削減に努める

①紙類 白上質紙、新聞紙、段ボール、その他の紙類

②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、紙パック、発泡スチロール、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ

③産業廃棄物 金属クズ、廃プラスチック、アルミホイール、廃タイヤ、廃バッテリー、ブレーキライニング、自動車ガラス

最終処分、単純焼却を減らすためにメーカー、関連業者との連携を深め処理技法の見直し等を常に行う。

④電子カタログを用いたシステム業務の見直しを図ることにより、受発注時におけるペーパーレス化の研究を行う。

⑤お客様にも呼び掛けを行い、自社分の廃棄物は自社で処理してもらえないか検討する。

⑥段ボールはリサイクルで活用する

3) 水使用量 (節水の取組)

①女子トイレの擬音発生装置の活用と使用後の手洗いをタンク補充時の水で行う。(タンクへのペットボトル活用で容量削減を継続する)

②洗車はバケツに汲み取り行い節水へ。

③節水コマの活用

④散水設備の水漏れ点検を定期的に行う

⑤雨水活用の可能性を研究する

⑥水使用時流したままにしないように注意する。

4) リサイクル商品の販売

①自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う

②新品商品の販売時、自主的にリサイクルパーツの案内をお客様に提案する。

③新品部品(欠品商品含む)等高価な商品は中古品も確認を行う。

④自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う。

- ⑤リサイクル部品がでてこなくても、時間を置いて再度確認しなおす。
- ⑥リビルト品の有効活用/管理コードの徹底
- 5) 化学物質の取り扱い
 - ①サービス課、事業開発課における作業手順の見直しを行い、化学物質を使用しない方法を模索する
 - ②代替品がない場合その使用を控える作業手順を模索する
 - ③廃ライニング(廃プラ)は売上増に伴って増加するので、プライマー、シンナー等の科学物質を発生させる物質から、より科学物質の低い商品に変更経過をみる
- 6) 省燃費オイルの販売
 - 指定粘度のオイルを使用する事で省燃費に貢献できるエンジンオイルの拡販に努め、販売総量とその比率を目標とする
- 7) グリーン購入
 - ①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する
 - ②電気製品、OA機器は適合品があれば適合品を選定する
 - ③トイレットペーパーは100%再生紙を使用する
 - ④リサイクルパーツ取り扱い拡大を重要課題として活動する
- (2) その他の取組
 - ①社員の環境への意識高揚のためにエコ検定の取得を目指して自主的な受験の参加を呼びかける。
 - ②環境委員会でない全従業員への理解を深めてもらう(啓蒙活動を含む)活動を続ける。
 - ③夏場の消費電力削減キャンペーンの積極的な参加を呼びかける。
 - ④取組み状況チェック表を活用し、従業員全員での活動していく。
 - ⑤エコバッテリーの拡販(従来品より燃費の向上)

◆郡山西・本宮・船引・県南営業所

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量(省エネに関する取組)

①エネルギー関連

○消費電力削減活動

- ・事業所照明のLED切り替えを終了。
- ・グリーンカーテンやガラスへの遮光フィルム等の貼付けを実地し夏場の消費電力の削減に努める。
- ・よしず等遮光を実施して空調機器の使用時間を短縮させる

- ・ 温度計による温度管理により極度の暖房や冷房の使用に注意する。
- ・ 使用していない時は照明をこまめに消す。
- ・ 朝礼は明るい場所で行い照明は点灯しない
- ・ 倉庫の照度の不足するところはセンサータイプの照明をつける（船引）
- ・ 夏場における家庭での消費電力削減活動を行う。
- ・ 古い空調設備の入れ替えを検討する（本宮）
- ・ 照明をこまめに消す（倉庫、人のいない事務所）
- ・ 事務所窓際、通路など蛍光灯の間引きを行う。
- ・ 照度の不足するところは蛍光灯に反射板を使用する
- ・ 残業時間を減らし夜間の消費電力を抑える

○灯油・LPG使用

- ・ 冬期 21 度、夏期 26 度とし、暖冷房温度管理を温度計の利用で適切に行う。
- ・ 暖房器具の温度計とは別に温湿度計の設置
- ・ 張り紙等の表示をして夏場の湯沸かし器の使用の抑制。
- ・ 元栓をして、不必要な湯沸かし器の使用を抑制する

②輸送関連燃料消費削減

○燃費改善活動

- ・ エコドライブの徹底を図る。
- ・ 車輻別燃費の確認を、前年度実績を基準に毎月確認・告示する。

○走行距離削減活動

- ・ 配送ミス、出庫ミスの撲滅をはかり無駄な配送を減らす。
- ・ 配送の効率化の見直し
- ・ 車輻の使用台数の効率化。
- ・ 出庫ミス、配送ミスの撲滅を図り、無駄な配送をなくす
- ・ 出庫ミス・配送ミスをカウントし要因を探り問題を解決する
（原因を明確にし、対策を考える）
- ・ 自社在庫の活用（定期的な見直しをはかる）

○車輻購入の新規購入は低燃費車を優先する

2) 廃棄物の排出量（リサイクルに関する取組）

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を上げると共に、削減に努める

- ①紙類 白上質紙、新聞紙、段ボール、その他の紙類
- ②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、紙パック、発泡スチロール、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ
- ③産業廃棄物 金属クズ、廃プラスチック、アルミホイール、廃タイヤ、

廃バッテリー、ブレーキライニング、自動車ガラス
最終処分、単純焼却を減らすためにメーカー、関連業者との連携を深め
処理技法の見直し等を常に行う。

- ④電子カタログを用いたシステム業務の見直しを図ることにより、受発注時におけるペーパーレス化の研究を行う。
- ⑤お客様にも呼び掛けを行い、自社分の廃棄物は自社で処理してもらえないか検討する。
- ⑥段ボールはリサイクルで活用する

3) 水使用量（節水の取組）

- ①擬音発生装置の活用と合わせ、使用後の手洗いをタンク補充時の水で行う（タンクへのペットボトル活用で容量削減を継続する）
- ②洗車はバケツにくみ取り行うことにより節水に努める
- ③節水コマの活用
- ④散水設備の水漏れ点検を定期的に行う
- ⑤雨水活用の可能性を研究する

4) リサイクル商品の販売

- ①自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う
- ②新品商品の販売時、自主的にリサイクルパーツの案内をお客様に提案する。
- ③品揃えの強化。
- ④自動車リサイクル事業の推進が環境負荷軽減活動と捉え積極活動を行う。
- ⑤リサイクル部品でも松竹梅と提案しお客様に選んでもらう

5) 省燃費オイルの販売

指定粘度のオイルを使用する事で省燃費に貢献できるエンジンオイルの拡販に努め、販売総量とその比率を目標とする

6) 化学物質の取り扱い

- ・現在の使用しない環境を維持する

7) グリーン購入

- ①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する
- ②電気製品、OA機器は適合品があれば適合品を選定する
- ③トイレットペーパーは100%再生紙を使用する
- ④リサイクルパーツ取り扱い拡大を重要課題として活動する

(2) その他の取組

- ①社員の環境への意識高揚のためにエコ検定の取得を目指して自主的な受験の参加を呼びかける。
- ②夏場の消費電力削減キャンペーンの積極的な参加を呼びかける。

- ③環境委員会でない全従業員への理解を深めてもらう(啓蒙活動を含む)活動を続ける。
- ④地元自治体等の活動にも積極的に参加し、地域社会への貢献に努める。P・D・C・Aのサイクルを実践。(船引)
- ⑤エコバッテリーの積極的な販売。

◆リサイクル事業部

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量

①運搬車両の燃料消費削減

- ・アイドリング削減、3分以上車を停車する場合はエンジンを停止させる。
- ・近年遠方への集荷が増えているのでの一層の集荷効率化を図り走行距離の削減に努める。
- ・号車毎の燃費改善に努める
- ・エコドライブの徹底を図る

②空調設備の適正使用により省エネに努める

③灯油、LPGの使用は適切に行う。不要なまとめ買いを行わない

④事務所の冷房効果を高める為に西日遮光を実施する(サンシェード他)

⑤グリーンポイントクラブ活動を推進することでお客様の低炭素社会構築の意識高揚に努める

⑥太陽光パネル設置

2014年4月実施(発電量15kWh)

2) 廃棄物の排出

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を高めると共に削減に努める

- ①紙類 段ボール、その他の紙類
- ②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ
- ③産業廃棄物 金属クズ、廃プラ、アルミ、廃タイヤ、廃バッテリー、車輛ガラ、廃エンジン

単純焼却、最終処分の発生ゼロを目指し分別の徹底と有価物化を推進する

④リターナブル梱包の実践

業界で研究中のリターナブル梱包の実践により梱包材の削減を図る

3) 水使用量

- ①トイレ排水の削減 貯水タンクにペットボトルを沈め、削減を図る

- ②洗車及び分品洗浄 バケツの活用により節水に努める
- ③節水コマの活用を検討する

4) リサイクルパーツ拡販活動

- ①直接業務でもあるがリサイクル部品の生産販売の拡大を図ることが一番の環境負荷軽減活動と捉え積極営業を展開する
- ②取り扱い点数に於いては前年を下回らない様に活動する

(2017年 21,389点)

5) 化学物質の取り扱い

- ①現在化学物質の使用はないが、今後も継続する。

6) グリーン購入

- ①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する
- ②電気製品、OA機器は適合品があれば100%
- ③トイレトペーパーは100%再生紙を使用する
- ④リサイクルパーツ取り扱い拡大を重要課題として活動する

◆イエローハット部門

(1) 数値目標を達成するための取組

1) 二酸化炭素排出量 (省エネに関する取組)

①エネルギー関連

○消費電力削減活動

- ・30分デマンドを行い、瞬間デマンド値を下げ、コスト削減に努める。
- ・空調(エアコン)が新しく増えたので全部使用せず、交互に使用する。
- ・季節に合う植物をプランターに植え季節感、緑を演出(白河)
- ・照明をこまめに消す(バックルーム、人のいない事務所)
- ・朝礼時は店内一列のみ照明を点灯させる
- ・店内照明の千鳥点灯を推進。(白河店)
- ・冷暖房温度管理を適切に行う。(夏場26度、冬場20℃)
- ・空調機器の閉店前遮断活動の徹底

○灯油・LPG使用

- ・夏場の瞬間湯沸かし器の使用を抑制する(張り紙表示)

②輸送関連燃料消費削減

○燃費改善活動

- ・エコドライブの徹底を図る(各店社員に呼びかけ)
- ・代車のアイドリング削減をメーターもしくは車内に設置。

2) 廃棄物の排出量 (リサイクルに関する取組)

以下の分別を徹底し、再利用、再生利用の比率を上げると共に、削減に努める

- ①紙類 白上質紙、新聞紙、段ボール、その他の紙類
- ②一般廃棄物 缶、ビン、ペットボトル、紙パック、発泡スチロール、プラスチック、粗大ゴミ、その他可燃ゴミ
- ③産業廃棄物 金属クズ、廃プラスチック、アルミホイール、廃タイヤ、廃バッテリー

最終処分、単純焼却を減らすためにメーカー、関連業者との連携を深め処理技法の見直し等を常に行う。

3) 水使用量（節水の取組）

- ① 手洗い設備において節水を心がける（小まめに止める）
- ② 洗車はバケツにくみ取り行うことにより節水に努める尚ピット垂れ流し防止
- ③ 節水コマの活用（両店に存在するか確認）
- ④ 散水設備の水漏れ点検を定期的に行う
- ⑤ ポリマーコート作業中、こまめに蛇口を捻る。

4) 省燃費オイル・低燃費タイヤ販売

（省燃費オイルは0W-20、5W-20を対象とする。低燃費タイヤはラベリング制度において転がり抵抗性能がA以上、ウェット性能C以上の物を対象にします。）

- ①低燃費オイル・低燃費タイヤを販売促進。
- ②お客様に環境に配慮した商品を提案していく。

5) 化学物質の取り扱い

パーククリーナ使用削減15缶以下にする。

6) グリーン購入

- ①物品購入時にはグリーン購入適合品を選定する
- ②電気製品、OA機器は適合品があれば100%
- ③トイレットペーパーは100%再生紙を使用する

(2) その他の取組

社員一人一人に分別意識を持ってもらい細かく分け資源に出来るものは資源にすることを課題にして廃棄物を減らし、二酸化炭素排出を減らします。

年間で両店廃タイヤの量は特別多いですが、むしろ多くし売り上げに繁栄し他の部分での削減を今後増やす活動を心がけます。

◆◆ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 ◆◆

適用となる主な環境関連法規

■ 制定日：2016年1月28日

■ 改定日：2016年11月26日（フロン排出抑制法 簡易点検）

■ 最新版チェック：毎年1月に実施

■ 最新版確認手順

下記HPによって、該当する法律を検索し、直近の改訂時期を確認、前回チェック時点以降の改訂法規等は関連条文に変更がないかどうかを確認する。若しくは、関連到達等によって、改訂の内容を確認する。

■ 法令データベース提供システム等

■ 環境省HP（法令・告示・通達）

■ 部署名：リサイクル事業部

■ 実施日：2018年3月10日

■ 実施者：岩澤雅弘

■ 遵守状況の評価

○：問題ない

△：法違反ではないが、問題あり（放置すると違反の可能性有り）

×：法律に違反している状態（至急改善を要する）

（△×の項目については、是正処置を行い、その結果を記録する）

環境管理責任者	担当者
鈴木和己	岩澤雅弘

法令等の遵守すべき内容	条項等	該当部署	法令等の適用を受ける設備、行為の詳細	期間等の規制	確認状況
■ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法：廃掃法）					
産業廃棄物処理業の許可	第14条	リサイクル事業部	産業廃棄物処理業許可申請書（収集・運搬）5年毎の更新	5年毎の更新	○
産業廃棄物処理業の変更許可	第14条の2		産業廃棄物処理業の変更があった場合	発生都度	○
産業廃棄物保管基準	第12条 2		産業廃棄物の保管		○
特別管理産業廃棄物排出	第12条の2 6		自動車用バッテリーの排出	発生都度	○
産業廃棄物管理票の交付	第12条の3、規則8の26		管理票の送付、回付	送付期限10日	○
産業廃棄物管理票の保管	第12条の3 6、規則8の21の2		管理表の保管	5年間以上	○
廃棄物の排出					
全般	第3条	自己処理の原則	事業活動に伴い発生した廃棄物は自らの責任で適正に処理すること。		○
	第5条	清潔の保持	土地の占有者（管理者）は、管理している土地、建物を清潔に保つこと。		○
一般廃棄物の処理	第6条の2	排出事業所	一般廃棄物の分別、保管等を行い、市町村に協力する義務がある。		○
一般廃棄物処理の委託	政令4条の4	排出事業所	一般廃棄物の運搬、処分を他人に委託する場合、許可された業者に委託すること。		○
	規則1条の17	排出事業所	委託業者の事業の範囲を許可証により確認すること。		○
産業廃棄物の処理	第11条	排出事業所	事業者は、産業廃棄物を自ら処理しなければならない。		○
産業廃棄物保管基準	第12条他	排出事業所	廃棄物が運搬までの間、保管基準に従い、保管すること。		○
産廃掲示板	政令6、規則8	排出事業所	周囲に囲いを設け、見やすいところに掲示板（規定の大きさ・表示内容）を設置（対象：産廃）		○
産廃処理の委託	第12条他	排出事業所	運搬・処分・再生を委託するときは、許可を受けた処理業者であること。		○
		排出事業所	委託業者の事業の範囲を許可証により確認すること。		○
		排出事業所	委託契約は、収集運搬業者及び処分業者と別々に行うこと。		○
委託契約書の発行	政令6条の2の6	排出事業所	委託契約は、必要な添付書類（規則8条の4）を添えて、書面により行う。		○
産業廃棄物管理表（マニフェスト）					
管理票の交付	第12条の3	排出事業所	産廃の運搬・処分を委託する場合には管理表を交付する。（廃棄物の種類毎に発行）		○
最終処分の確認		排出事業所	排出した産業廃棄物の最終処分をE票の返送で確認する。		○
調査と報告		排出事業所	90日以内にB2票、D票が返却されない場合、管理票交付後180日経過しても、E票の返却がない場合、委託先に調査後、県知事へ報告提出する。	B票：90日 E票：180日	○
保管期間		排出事業所	管理票は5年間以上、適切に保管する。	5年間以上	○
管理票の返却（返却日の記入）		規則8条の23	排出事業所	運搬を終了した日から原則10日以内にB2票が返送されていること。	10日
	規則8条の25	排出事業所	処分を終了した日から原則10日以内にD票が返送されていること。	10日	○
知事・市長への報告	規則8条の27	排出事業所	管理票交付状況を毎年6月30日までに様式3により郡山市長・知事に報告する。		○

■使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)					
引取業者	第42条、第43条	リサイクル事業部	引取業者の県知事への登録	5年毎の更新	○
	第46条		引取業者申請事項の変更届	30日以内	○
	第48条		廃業等の届出	30日以内	○
フロン類回収業者	第53条、第54条	リサイクル事業部	フロン類回収業者の県知事への登録	5年毎の更新	○
	第57条		フロン類回収業者申請事項の変更	30日以内	○
	第11条、第12条		当該使用済自動車の引取とフロン類の回収義務		○
	第13条		回収済フロン類の第21条規定の業者への引き渡し義務		○
解体業	第60条、第61条、第62条	リサイクル事業部	解体業の県知事申請と許可	5年毎の更新	○
	第63条		申請事項の変更届	30日以内	○
	第64条		廃業等の届出	30日以内	○
	第65条		主務省令で定める事項を記載した標識の掲示		○
■フロン排出抑制法	第86条	全事業所	フロン類の放出禁止		○
	第86条	全事業所	業務用冷凍空調機器の簡易点検実施	年4回以上実施	○
■道路運送車両法					
永久抹消登録	第15条	リサイクル事業部	永久抹消登録の申請	15日以内	○
一時抹消登録の申請	第16条		一時抹消登録申請	15日以内	○
記録等の保存	第21条		永久・一時抹消登録申請書控えの保管	5年間	○
■下水道法					
排水設備等の設置	第10条		公共下水道設置地区の下水への接続義務		○
下水道使用の届出	第11条の2	本社、YH郡山南・白河	下水道使用開始時期を公共下水道管理者への届出義務		○
下水排出基準の遵守	第12条の2	本社、YH郡山南・白河	下水排出基準の遵守(分離槽の定期チェック)		○
■浄化槽法					
新設水質検査	第7条	郡山西・本宮・船引・県南	新設浄化槽は使用開始3ヶ月を経過した日から5ヶ月間に指定検査機関の水質検査を受ける		○
保守点検・清掃	第10条の1	郡山西・本宮・船引・県南	年3回以上、浄化槽の保守点検及び清掃を行い、その記録を3年間保存する	年3回、3年保存	○
定期検査	第11条	郡山西・本宮・船引・県南	年1回、指定検査機関による水質に関する定期検査を受ける	年1回	○
廃止の届出	第11条の2	郡山西・本宮・船引・県南・YH郡山南	浄化槽の使用を廃止したときは30日以内に知事に届出	30日	○
■水質汚濁防止法	第14条の2	リサイクル事業部	排水基準を超える緊急時の応急措置及び届出	速やかに	○
■消防法					
消防計画作成・提出	第8条	本社・営業所、リサイクル事業部、YH店舗	防火管理責任者の設置及び消防計画の作成提出		○
危険物保管に関する届け出	第9条の3	本社・営業所、リサイクル事業部、YH店舗	政令数量以上のエンジンオイル他石油類の保管時の届出		○
郡山市火災予防条例	第38条、第38条の2	本社・営業所、リサイクル事業部、YH店舗	指定数量の1/5以上の危険物を貯蔵する場合は、消防署長に届出が必要(エンジンオイル 1200ℓ以上)		○

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。更に、自社で遵守状況をチェックしたところ問題はなかった。また、地域社会等からの苦情等による指摘もなかった。

(2) 違反、訴訟等

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。更に、自社で遵守状況をチェックしたところ、問題はなかった。又、地域社会等からの苦情等による指摘もなかった。

◆◆ 代表者による全体評価と見直し ◆◆

弊社におけるE A 2 1の活動は14年目を迎え、2015年12月には一般財団法人持続性推進機構様より表彰という評価を賜りました。電気、燃料、水、ゴミの削減活動からスタートの環境活動でしたが、「減らす活動から増やす活動」への転換を目指し、従来の中古・リサイクル商品の販売拡大に加え、2015年からは業務営業内容に深く関わる、省燃費オイル、低燃費タイヤの取扱拡大を環境目標に加え活動し、2017年はイエローハット部門で郡山南店のオイル数量以外全項目達成。卸部門はオイルの取扱総量の拡大もあり比率は未達であったが、販売量は大きく伸ばすことが出来ました。二酸化炭素の排出においては2017年目標に対して100.23%と達成しました。卸・リサイクル部門においては燃料が、店舗においては電気が二酸化炭素排出の75~90%超の要因になっており、テレマックス運用によるエコドライブの推進、照明設備を含めた店舗の電気使用に関する運用改善の必要性を確認しております。イエローハット部門において30分デマンドを意識した日々の電気設備の立ち上げ管理を徹底することで電気料金削減の効果が現れておることを活動の励みとしてその活動を全社に広げて参ります。

2007年より実施して恒例となっている、夏場の家庭における消費電力削減活動を、全社員115名を対象に行いました。2017年は前年の75%（88名）を超える76.5%（88名）の協力を得て実施。参加者全家庭の排出状況は、前年比104.5%、802kgの増加と目標未達であったが、前年比削減が31名存在し、7月の猛暑が活動の中心であった事を考慮すれば、環境負荷軽減意識を高め、E A 2 1活動に積極的に協力する環境が整ってきた現れと感じております。

これらの活動を推進するに当たって2011年6月より活動して参りました環境委員会の役割は大きく、日々の活動を毎月の環境委員会で確認することの繰り返しが機能していると捉えています。部門選出の委員は人事異動等で構成が恒に変わり戸惑いもあるかと思いますが、多くの人に関わる環境にもなりE A 2 1への理解を深める結果と捉えています。

今後の弊社の環境活動は従来活動の質の向上を目指すと共に社員を巻き込んだ活動へより裾野を広げた活動を目指して参ります。テレマックスは成果を認められることから今後も拡大を図りますが、自社だけに止まることなく、関係各社への拡大も目指して行きます。設備更新に当たってはより環境負荷軽減品を優先して社員活動の支援環境を整えます。

エコアクション21 組織及び役割分担表

平成30年5月1日現在

